

## 令和6年度病害虫発生予報第8号

長崎県病害虫防除所長

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病害虫名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
ばれいしょ	チョウ目害虫（ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ、オオタバコガ） (注意報第6号継続)	多	多
きゅうり	うどんこ病 褐斑病 ミナミキイロアザミウマ コナジラミ類	並 並 やや少 並	並 並 並 やや多
トマト	黄化葉巻病 コナジラミ類	並 並	並 やや多
いちご	うどんこ病 アブラムシ類 ハダニ類 ハスモンヨトウ(注意報第6号継続) アザミウマ類	並 並 少 やや多 やや多	並 やや多 やや少 やや多 やや多
ブロッコリー	黒腐病 べと病 コナガ ヨトウムシ類(注意報第6号継続) オオタバコガ(注意報第6号継続) アオムシ	やや少 並 少 多 多 やや少	やや少 並 やや少 多 多 並
レタス	灰色かび病 菌核病 アブラムシ類 オオタバコガ	並 並 やや少 並	並 並 並 やや多
かんきつ	ミカンハダニ	多	多

【発生予報】 本文の（ ）内は平年値

## ばれいしょ

## 1. チョウ目害虫（ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ、オオタバコガ）

令和6年10月30日付け**病害虫発生予察注意報第6号**を継続。

なお、その後の発生状況については、以下のとおりである。

## (1) 発生状況等

ア 11月前期の巡回調査（20筆）の結果、食害株率は51.6%（5.4%）、発生圃場率は95.0%（45.6%）であった。

株当たり虫数は、ハスモンヨトウで0.01頭（0.00頭）、シロイチモジヨトウで0.07頭（0.00頭）、オオタバコガで0.13頭（0.00頭）であった。

イ ハスモンヨトウのフェロモントラップ（諫早市）の誘殺数は、11月1半旬に大きなピークとなり、平年よりかなり多かった。11月2半旬以降減少したが、平年よりやや多く推移している（図）。

シロイチモジヨトウのフェロモントラップ（諫早市）の誘殺数は、11月1半旬にピークとなり平年よりかなり多かった。11月2半旬以降減少したが、平年より多く

推移している（図）。

オオタバコガのフェロモントラップ（諫早市）の誘殺数は、11月1半旬に急増して大きなピークとなり、平年よりかなり多かった。11月2半旬以降減少し、平年並で推移している（図）。

ウ 向こう1か月の気温はかなり高い見込みであり、引き続き本虫の発生に好適である。

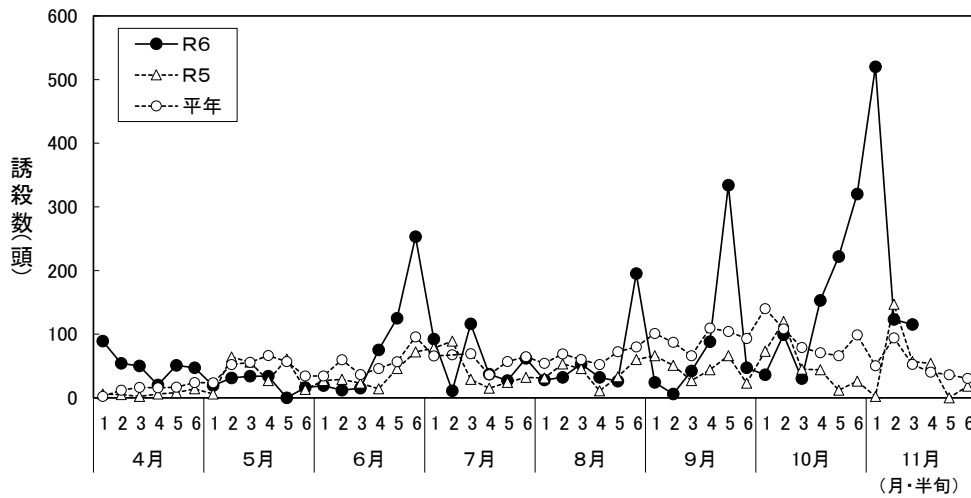


図 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況 (諫早市小船越町)

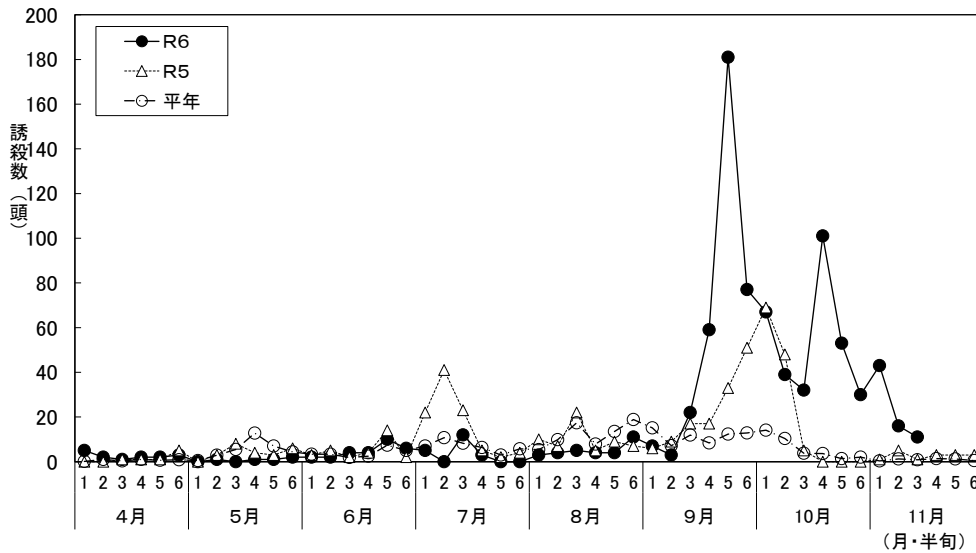


図 シロイチモジヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況 (諫早市小船越町)

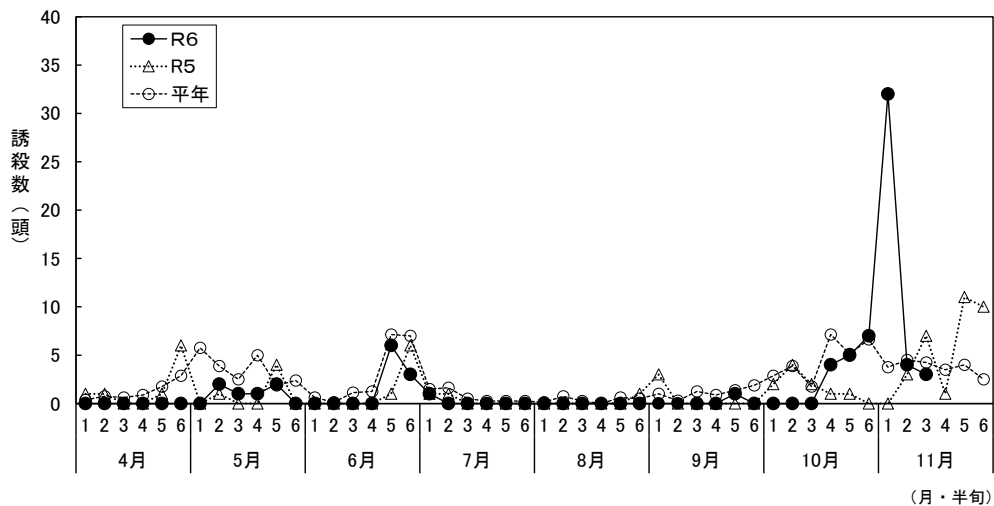


図 オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺状況 (諫早市小船越町)

## きゅうり

### 1. うどんこ病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

11月前期の巡回調査（5筆）の結果、発病葉率は1.6%（2.0%）、発生圃場率は20.0%（39.7%）であった。

### 2. 褐斑病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

11月前期の巡回調査（5筆）の結果、発生を認めなかった（過去10か年平均 発病葉率0.0%、発生圃場率1.4%）。

### 3. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 11月前期の巡回調査（5筆）の結果、発生を認めなかった（寄生葉率0.4%、発生圃場率10.3%）。

イ 向こう1か月の気温はかなり高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

### 4. コナジラミ類

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 11月前期の巡回調査（5筆）の結果、寄生葉率は6.6%（5.9%）、発生圃場率は100%（60.8%）であった。

イ 向こう1か月の気温はかなり高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 密度が高くなると防除が困難になるので発生初期に防除する。

イ タバココナジラミは退緑黄化病の病原ウイルス（CCYV：ウリ類退緑黄化ウイルス）を媒介するので、防除を徹底する。

ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和6年長崎県病害虫防除基準P160～163の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤を連用しない。

## トマト

### 1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

11月前期の巡回調査（9筆）の結果、発生を認めなかった（発病株率0.0%、発生圃場率7.3%）。

### 2. コナジラミ類

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 11月前期の巡回調査（9筆）の結果、寄生葉率は5.4%（1.8%）、発生圃場率は55.6%（49.3%）であり、一部多発圃場が見られた。

イ 向こう1か月の気温はかなり高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 密度が高くなると防除が困難になるので発生初期に防除する。

- イ 本虫は低密度でも黄化葉巻病や黄化病ウイルスを媒介するので防除を徹底する。
- ウ 本虫は葉裏に多く寄生しているので薬剤のかけむらがないよう丁寧に散布する。
- エ 施設内の雑草は、本虫の増殖源となるので除草を徹底する。
- オ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和6年長崎県病害虫防除基準P188～191の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤の連用を避ける。

いちご

1. うどんこ病

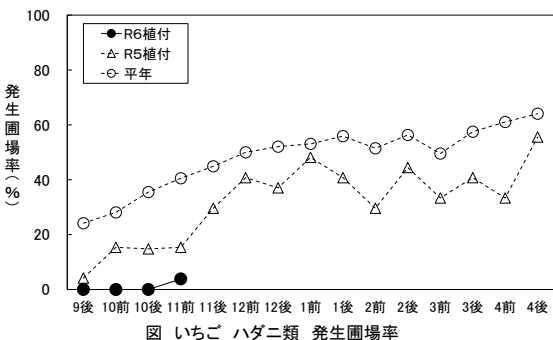
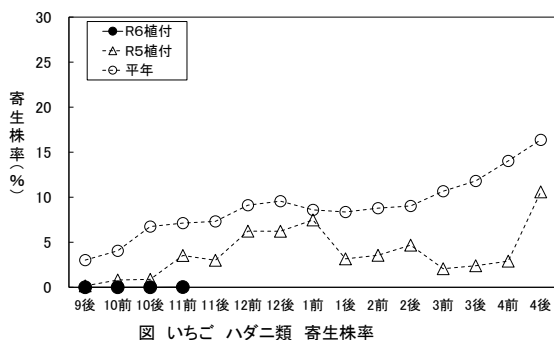
- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠
  - 11月前期の巡回調査（26筆）の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

2. アブラムシ類

- (1) 予報内容：発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠
  - ア 11月前期の巡回調査（26筆）の結果、寄生株率は1.4%（1.6%）、発生圃場率は26.9%（24.9%）であった。
  - イ 向こう1か月の気温はかなり高い見込みであり、本虫の発生に好適である。
- (3) 防除上注意すべき事項
  - ア 花のがくに寄生しやすいので、発生を認めたら初期のうちに防除を行う。
  - イ 薬剤のかけむらがあると防除効果が低下するので、葉裏まで十分に散布する。

3. ハダニ類

- (1) 予報内容：発生程度 やや少
- (2) 予報の根拠
  - ア 11月前期の巡回調査（26筆）の結果、寄生株率は0.0%（7.1%）、発生圃場率は3.9%（40.5%）であった。
  - イ 向こう1か月の気温はかなり高い見込みであり、本虫の発生に好適である。



- (3) 防除上注意すべき事項
  - ア 薬剤散布前には古葉の整理を行い、薬剤が葉裏までかかるようにする。また、摘葉した古葉は、速やかに圃場外に持ち出し適切に処分する。
  - イ 今後、天敵を導入する圃場では、天敵に影響の少ない薬剤を用いて防除を行い、ハダニの密度を極力低減した上で放飼する。
  - ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和6年長崎県病害虫防除基準P218～221の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤の連用を避け、薬剤感受性低下の恐れが少ない気門封鎖剤や異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。

4. ハスモンヨトウ

令和6年10月30日付け**病害虫発生予察注意報第6号**を継続  
 なお、その後の発生状況は以下のとおりである。

- (1) 発生状況等
  - ア 11月前期の巡回調査（26筆）の結果、食害株率は1.4%（2.0%）、発生圃

場率は34.6% (28.8%)、幼虫の寄生株率は0.7% (0.3%)であった。  
 イ フェロモントラップ (諫早市) の誘殺数は11月1半旬に大きなピークとなり、平年よりかなり多かった。11月2半旬以降減少したが、平年よりやや多く推移している (図 ばれいしょの項参照)。  
 ウ 向こう1か月の気温はかなり高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

## 5. アザミウマ類

- (1) 予報内容：発生程度 やや多  
 (2) 予報の根拠

ア 11月前期の巡回調査 (21筆) の結果、寄生花率は1.1% (過去9年平均0.4%)、発生圃場率は33.3% (同 19.3%) であった。

イ 向こう1か月の気温はかなり高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

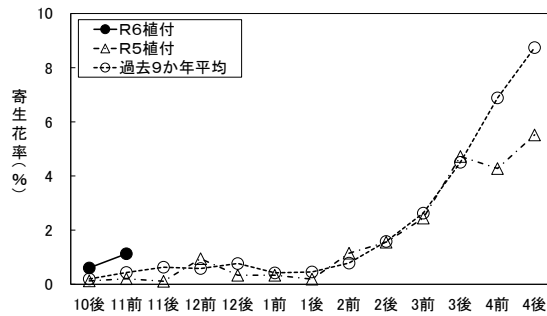


図 いちご アザミウマ類 寄生花率

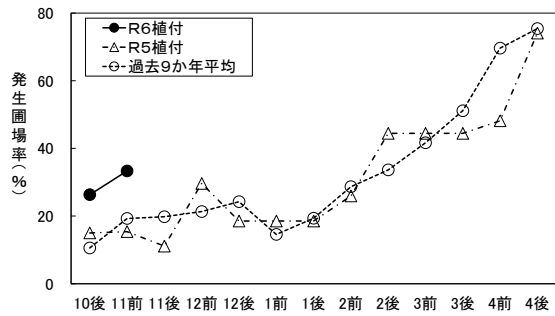


図 いちご アザミウマ類 発生圃場率

- (3) 防除上注意すべき事項

ア 発生が多くなってからの防除は困難であるので、早期発見、早期防除に努める。  
 イ 本虫は、薬液が到達しにくい蕾や花、がく等に寄生しているため、薬剤散布は丁寧にを行い薬液がかかるようにする。  
 ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤 (令和6年長崎県病害虫防除基準 P218~221の「作用機構による分類 (IRAC)」参照) を連用しない。  
 エ 薬剤の選定に当たっては、ミツバチへの影響に注意する。

## ブロッコリー

### 1. 黒腐病

- (1) 予報内容：発生程度 やや少  
 (2) 予報の根拠

11月前期の巡回調査 (12筆) の結果、発病株率は0.0% (2.2%)、発生圃場率は8.3% (12.5%) であった。

### 2. ベと病

- (1) 予報内容：発生程度 並  
 (2) 予報の根拠

11月前期の巡回調査 (12筆) の結果、発生を認めなかった (発生を認めない)。

### 3. コナガ

- (1) 予報内容：発生程度 やや少  
 (2) 予報の根拠

ア 11月前期の巡回調査 (12筆) の結果、寄生株率は0.1% (6.2%)、発生圃場率は8.3% (50.8%) であった。

イ 向こう1か月の気温はかなり高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

#### 4. ヨトウムシ類 (ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ)

令和6年10月30日付け**病害虫発生予察注意報第6号**を継続  
なお、その後の発生状況は以下のとおりである。

##### (1) 発生状況等

ア 11月前期の巡回調査(12筆)の結果、ハスモンヨトウの寄生株率は1.3%  
(0.3%)、発生圃場率は41.7%(7.3%)であった。

シロイチモジヨトウの寄生株率は1.4%(過去8か年平均 1.0%)、発生圃場率は50.0%(同 16.7%)であった。

イ フェロモントラップ(諫早市)の誘殺数は、ハスモンヨトウで11月1半旬に大きなピークがあり平年よりかなり多かった。11月2半旬以降は減少したが、平年よりやや多く推移している(図 ばれいしょの項参照)。

シロイチモジヨトウは、11月1半旬にピークとなり平年よりかなり多かった。

11月2半旬以降減少したが、平年より多く推移している(図 ばれいしょの項参照)。

ウ 向こう1か月の気温はかなり高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

#### 5. オオタバコガ

令和6年10月30日付け**病害虫発生予察注意報第6号**を継続  
なお、その後の発生状況は以下のとおりである。

##### (1) 発生状況等

ア 11月前期の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は0.7%(0.4%)、発生圃場率は41.7%(8.3%)であった。

イ オオタバコガのフェロモントラップによる誘殺数は11月1半旬に急増し、平年よりかなり多くなった。11月2半旬以降減少し平年並で推移している(図 ばれいしょの項参照)。

ウ 向こう1か月の気温はかなり高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

#### 6. アオムシ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 11月前期の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(寄生株率0.2%、発生圃場率4.2%)。

イ 向こう1か月の気温はかなり高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

レタス
-----

#### 1. 灰色かび病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

11月前期の巡回調査(9筆)の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

#### 2. 菌核病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

11月前期の巡回調査(9筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.03%、発生圃場率5.6%)。

#### 3. アブラムシ類

(1) 予報の内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 11月前期の巡回調査(9筆)の結果、発生を認めなかった(寄生株率0.3%、発生圃場率8.7%)。

イ 向こう1か月の気温はかなり高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

気温の低下につれて球内部の葉への寄生が増えるので、薬剤防除にあたってはできるだけ結球前の防除を徹底する。

4. オオタバコガ

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 11月前期の巡回調査（9筆）の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

イ オオタバコガのフェロモントラップによる誘殺数は11月1半旬に急増し、平年よりかなり多くなった。11月2半旬以降減少し平年並で推移している（ばれいしょの項参照）。

ウ 向こう1か月の気温はかなり高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 本虫は結球内部に食入すると防除が困難になるため、結球前の防除を徹底する。

イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統薬剤（令和6年長崎県病虫害防除基準のP250～251「作用機構による分類（IRAC）」参照）を連用しない。

かんきつ

1. ミカンハダニ

(1) 予報内容：発生程度 多

(2) 予報の根拠

11月前期の巡回調査（36筆）の結果、寄生葉率は16.8%（4.3%）、発生圃場率は75.0%（37.5%）で、圃場間差が大きかった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 越冬虫のマシン油乳剤による防除は、収穫後の12月（遅くとも1月上旬まで）に、晴天が続く日（少なくとも2、3日程度）を目安に行う。

イ 樹勢が低下している樹では落葉が助長されることがあるので、そのような園や12月に防除ができなかった園では、厳寒期を過ぎた3月に散布する。

ウ マシン油乳剤は、名称が異なる剤が複数あるので、各製品の使用基準をよく確認する。

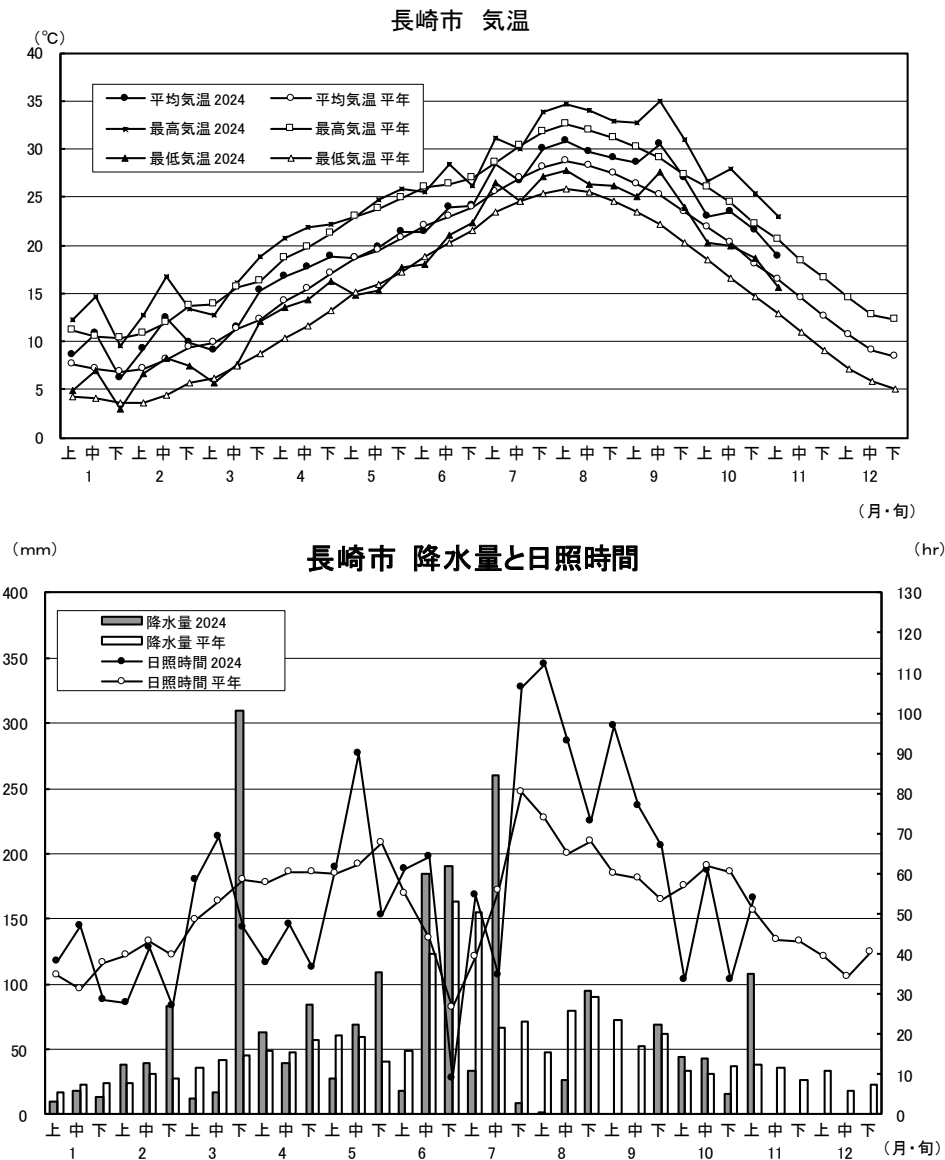
【参考】

(令和6年11月14日発表 1か月予報 福岡管区気象台)

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	10	20	70
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

※予報対象地域：九州北部地域

令和6年の気象経過(長崎地方気象台)



○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室  
(長崎県病害虫防除所) ホームページ」アドレス

: <https://www.pref.nagasaki.jp/e-nourin/nougi/JPP/index.html>

○この情報に関するお問い合わせ

長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室  
(長崎県病害虫防除所) TEL : 0957-26-0027

